

第45回日独スポーツ少年団同時交流 感想文（団員）

東北Ⅱグループ 宮城県 瀬戸朝陽

題名「大きな夢」

私は今回の交流で大きな夢を持つことができた。それは私たちが訪問したハンブルクにあったETVのようなスポーツクラブを取りまとめる組織を作ることだ。ただのスポーツクラブではなく、障がいを持つ人ともスポーツを楽しめるようなものを目指したい。第45回のテーマである、スポーツにおけるインクルージョン～みんなが参加できるスポーツとは～その答えは全てのスポーツだと私は思う。まずは、みんなで楽しんで、お互いを思いやって、挑戦してみないことには始まらないとドイツに行って感じる事ができた。私たち東北Ⅱグループも指導者・通訳・団員の全員がお互いを理解できたから、各自の楽しみ方で16泊を過ごせたと思う。

私はグループ長を務めたが、日独交流を一番楽しめた自信がある。その分、他のメンバーに負担や迷惑をかけたのではないかという思いもある。ただ、ドイツで受け入れをしてくれたメンバーにも東北Ⅱのメンバーにもまた会いたい。彼らは最高友達だ。

○アンケート

1.日独同時交流を知ったきっかけ

A.地元のリーダー会から“ドイツに行けるといいね”とジュニアリーダーの頃から言われていた。

2.日独同時交流を増やすためのアイデア

A.ジュニアリーダースクールやシニアリーダースクールで体験者から話を聞く場を設ける。

3.周りの派遣参加を諦めた人の理由

A.派遣参加を諦めた人はいないが、事前課題など準備する期間がもう少し欲しい(経済的な問題もあるため)

第45回日独スポーツ少年団同時交流 感想文（団員）

東北Ⅱグループ 宮城県 高橋俊平

題名「ドイツで学んだこと」

今回の日独同時交流で自分は多くのことを経験しました。
海外に行くことやホームステイなど初めての経験をたくさんしました。
どの活動も楽しく貴重な時間を過ごすことができました。

活動の中で今年のテーマであるインクルージョンに対する考え方の
日本とドイツでの違いを実感しました。街を歩いている車椅子や義足の
ようなものをつけている人が一人で歩いている光景がよく見られました。
日本では滅多にないものだったので最初見た時はすごく衝撃的でした。
グループの通訳の人に話を聞いたときにはドイツでは障害も1つの
個性として考えるといことを聞きました。日本では障害を持つ人達を
障害者として分けてしまいが、ドイツではそれを個性として
受け入れているのだと感じました。

今回の交流で多くんことを経験し学びました。
自分の団の先生、東北ⅡのメンバーやETVの人達、
ホストファミリーに感謝して、今後の活動で今回学んだことを
活かしていきます。

○アンケート

1.日独同時交流を知ったきっかけ

A.

2.日独同時交流を増やすためのアイデア

A.

3.周りの派遣参加を諦めた人の理由

A.